南都大佛殿御縁起

全

謹呈

昭和九甲戌春日

東大寺

清水公照

聖武皇帝金銅勅願文

施

封五千石

水田一萬町

以前捧上件物達限日月窮未来際敬納

彼三寶分依此發願大上天皇沙弥勝滿

諸佛擁護法藥薫質万病消除壽命延長

一切所願皆使滿足令法久住拔濟群生

天下大地人民快樂法界有情共成佛道

以代代國王為我寺檀越若我寺興複天

下興複若我寺衰弊天下衰弊復誓其後
代有不道之主邪賊之臣若犯若破障而
不行者是人必得殃辱十方三世諸佛菩
薩一切賢聖之衆終當隨大地獄無數劫
中永無出離十方一切諸天梵天護塔大
善神王及普天率土有勢威力天神地祇
七廟尊靈并佐命立功大臣將軍靈共起
大禍永滅子孫若不犯觸敬勤行者世世
累福終隆子孫共　　塵域早登覺岸
天平勝寶元年

平城宮御宇大上天皇法名勝滿
菩薩戒弟子皇帝沙弥勝滿誓願十方三
世諸佛法僧太天平十三年歲次辛巳春
二月十四日朕發願稱廣為蒼生遍求景
福天下諸國各合敬造金光明四天王護
國之僧寺并寫金光明最勝王經十部住
僧廿人施封五十戸水田十町又於其寺
造七重塔一區別寫金字金光明最勝王
經一部安置塔中又造法華滅衆之尼寺

并寫妙法蓮華經十部住尼十人水田十
町所冀聖法之威與天地而永流擁護之
恩被幽明而恒滿天地神祇共相和順恒
將福慶永護國家開闢已降先帝尊靈長
幸珠林同遊寶刹又願太上天皇太皇后
藤原氏皇太子已下親王及大臣等同資
此福俱到彼岸藤原氏先後太政太臣及
皇后先妣從一位橘氏太夫人之靈識恒
奉先帝而陪遊淨土長願後代而常衛聖
朝乃至自古已來至於今日身為大臣竭

忠奉國者及見在子孫俱因此福各繼前
範堅守君臣之禮長紹父祖之名廣紛群
生通談庶品同辞愛網共出塵籠者今以
天平勝寶五年正月十五日莊嚴已畢仍
置塔中伏願前日之志悉皆成就若有後
代聖主賢卿美成此願乾坤致福愚君拙
臣改替此願神明勅訓

東大寺大佛殿縁起上

大南閻浮提大日本國惣國分寺東大寺しゝ

聖武皇帝救世観音ゝ化現ゝて願と願四聖

同心ゝ草創也其由来といへゝ釈尊

説法乃初普賢文殊観音弥勒等ゝ菩薩

[illegible]利益ゝとゝとゝあゝ四聖同

時ゝ[illegible]

本願皇帝救世観音　行基菩薩母文殊

菩提僧正普賢　良弁僧正弥勒

伊勢太神宮ゝ地と表ゝて朝家ゝ一

乃護國寺しゝ[illegible]八幡大菩薩しゝ[illegible]

ゝ[illegible]ゝて[illegible]ゝ[illegible]

ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

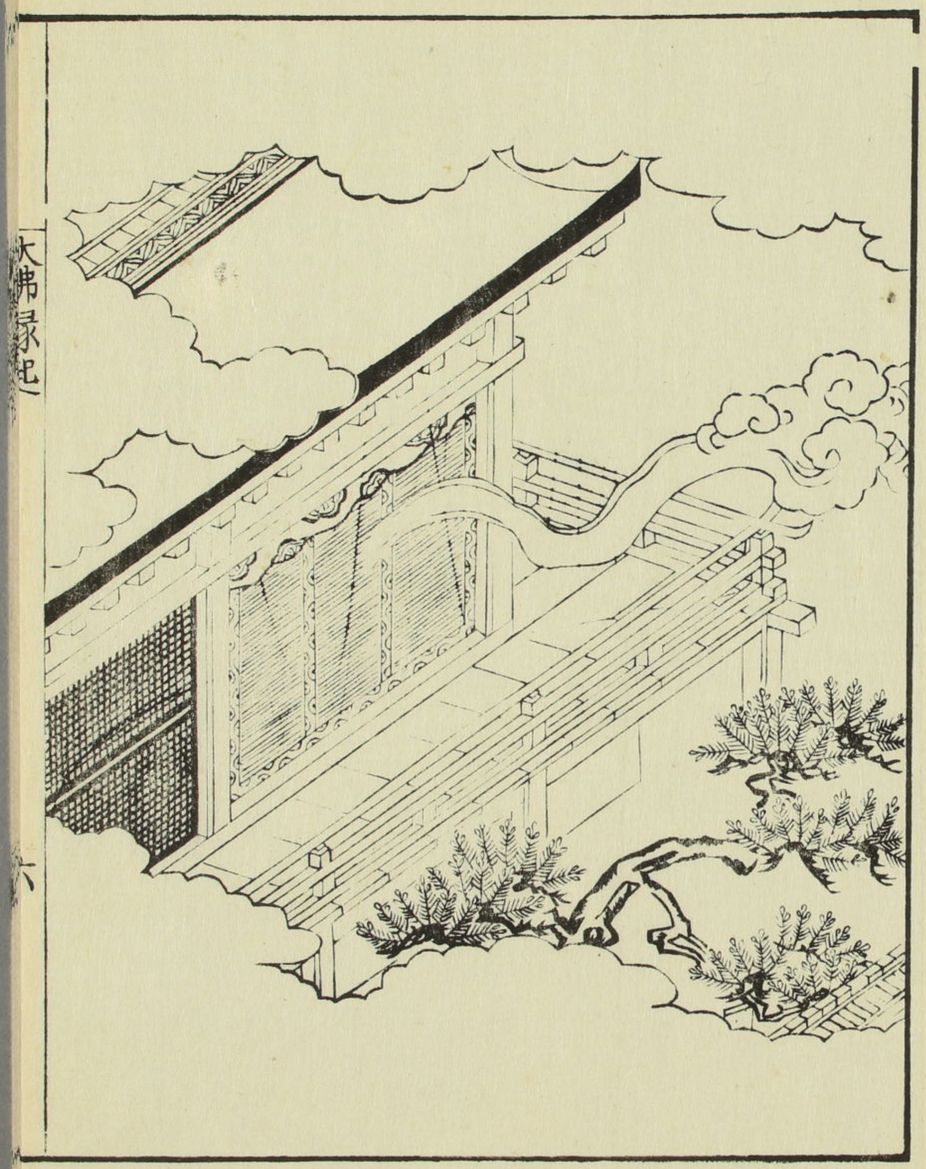
大佛家記

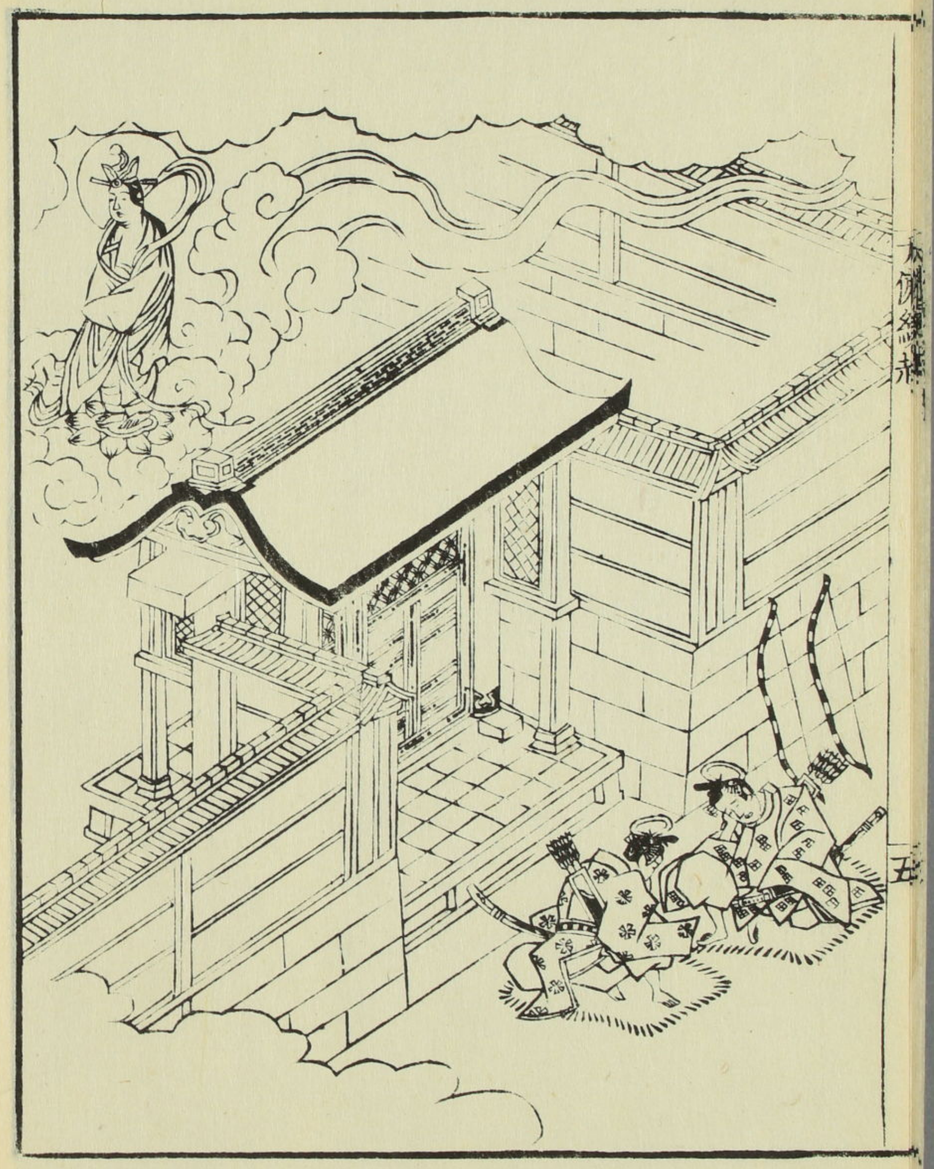
大佛緣起

花嚴良弁僧正誕生より佛法とりとめ
ぐしう倉衛國へおもむきさりて流沙と渡らんと
せしよ和尚備笑をのくして德の月白と遂りしに
聖武天皇さきに世の流沙のまくしるして海
しくくろうが祝來法れんぐしよ感じて渡し
くろうよりろらびあたくどして告ていはく和尚
しゝ代善國よりて一ふれ王位をあらうくしい
國しく其國の生れくの師壇とありて大仏藍と眞
陸しく衆生と厥度せんとらひ給り

推古天皇治十二年上宮太子夢れ告ありて
野の中遊行あり泉川れの色より宿り給ひ
よりたりてのち我慢して後二百五十
年よ丹秋氏ありて此地に寺を建て彼秋氏
より後身あるべし又同廿五年法隆川れより
しらての給ふく我を生る帝王ありて尊れ
世の精舎として仏法をひろめ三宝を重れ学
あるべしとの給ふ此刹利王天皇寛仁の後
彼者の子孫絶れむと思へれ母れ愛の舎

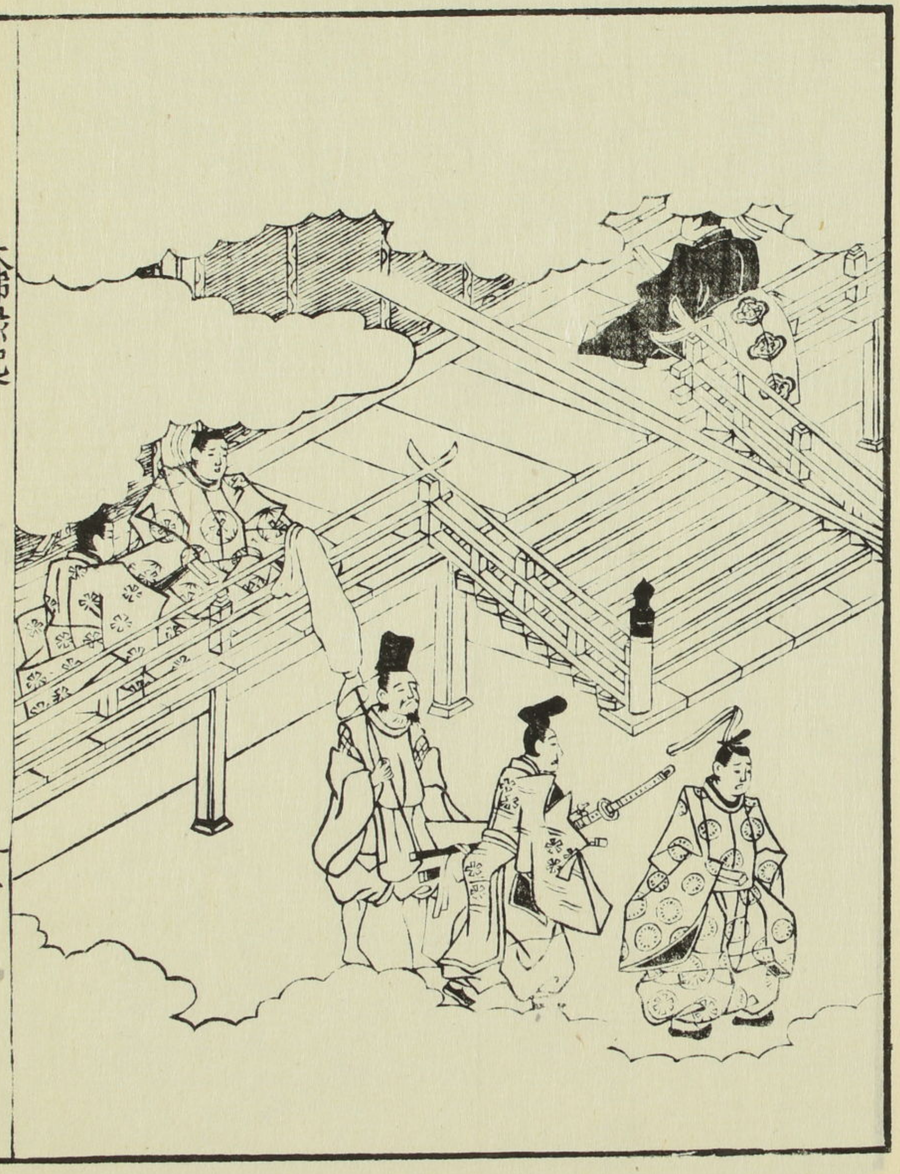
及れ仏ありていろく我世と救れあり給ふ
若しなどとの給ひしけれ母申くれ給ふ
より推ふとも給へとも其後我が救世観音あり
観音は色より西よりとの給されれ母も給ふく我
身は宇宙にいてう宿りあんとの給ふ
此仏観音けなりとの給ひしに
去りしかばゆるしをまり給ふ去りて母れ
ほとりに入給ふと見てやがてこゝ参りとあん
れ孔雀帝救世観音あれ化現する事炳焉なるめり





良辨僧正に相模國の人なり持統天皇治三年に
誕生まり書寺いまゝ深山まりしに金色の鷲舞
まりて大なる松のうかあるの中にとゝまりて養育
年月を経るに人となりて樹木の草庵をむす
びて数の日をすごす石室と号して執金剛神
乃像を安じ金鷲仙人と号して王城よりひし
て金獅子王天長地久とのべ給へり遠
国えて奇異の叡言しより又紫雲ふ
そひえて金色の光神像乃まのゝあたり

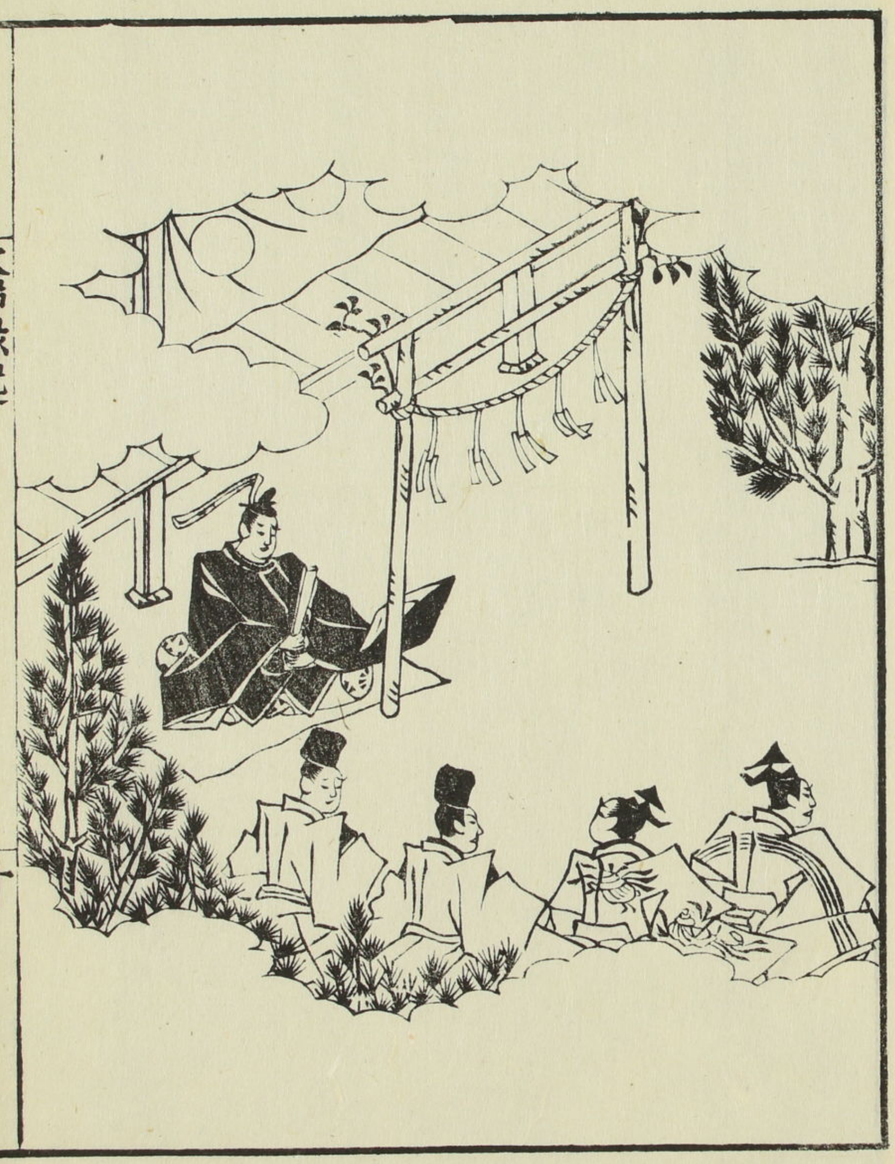
さして皇后とてもろ〳〵天皇あやしみ給ひ侍
ほどなくひて〳〵と勅使とつかはし車にの
と給ふ石橋ふる仙人あり給へりけまくよやうるふ
天皇幸ありかり仙人第生まりての深山に石
室のうち仏菩薩と真澄をゞしと
奏まり天皇宿願乃止事のさまをおぼ
て〳〵けるを一位裏のて還幸ありて出
家とゝもあり紫文に太公望と一車のせく
ゆりて帰とあゞめ給ひしをゝ仏ようらを給り



行基菩薩聖武天皇に養育せらるゝ神明の助
力なくしていかゞ教化をげゝ給ふ天照太神
ふ為りて行基と云ふ為に浮勢の國に下
給ひ乃ち私の為に出ると云ふて七日七夜行基世
尊を導き給ひ如来前生利益の跡を示し給
ふ事は我も釈迦分身の子として化俗
利生の為に生れ下給ひ不拘の仏舎
利一粒とも為り給ふ納受とそれ和尚と
成じ給ふ事は天照太神夢中に示現あり 取要

我遇難遇之大願
亦受難受之寶珠
造聖武大佛殿故
當相應所安二志
行基菩薩夢さめて新羅の杖とうかゝり
仮寄る船は地中より佛舎利を納て船よりの
地へ下し養育奥別に彩て八万金と為り給
ふ為りて水金とゝり信ふ為て赤銅成
求て名を神明冥感あり

於闇夜如得之燈
於渡海如得之船
慶豊太神宮之事
飯高施福衆生故云云



東大寺大佛殿縁起中

天平十八年大佛の像を鑄奉事七年なり
まて造正のゝち天皇叡感あさうして
歎き給ひて立て天魔の障をなすゆへ又鑄師の
作をあやぶゆへとありしかは法師へ勅使をさしつかは
して鑄師の良巧を求め給へり勅使義濃國
雄総といふ所にいたりて童子あまたこゝにつきて
牛を追ひ其中に一人の奇童ありて彼
勅使をあやしみ問給へ我は素戔嗚尊の勅使
なり十六丈の金容を鑄奉る鑄師の良
工を求給へりとなり彼童子別杖をおろし
遠ざかる門前の柳の根に相好端厳の盧舎那の像
を一所にぞかきをかれ勅使かの童
あやしみて相具して養育し給へ叡感
なりて彼上の文を信とうけあり仏像の文と
きよりて雄総寺といふ寺を建立し金泥の
多宝塔と安置して大仏を鑄奉
さよしと移ナリとなん

天平勝寶元年又大佛と號あらはるゝ
ときのゝ有りしよ彼寺に天平元年佛天の助
力ありしに大數の僧侶ゝ集りしに一万人の僧侶と稱ふるに法會と名付
養日ゝ毎に行はるゝゝと大會と執行せり
ゝよ屋宅より光さゝ世の人の驚怪
現して彼寺に詣でゝ拜ふ驚きかぎり
なし洗ゝの網不足ありしに毎日
金銀ありゝ又寺に中やう一万人の

僧侶の掬を受ると又百濟の鑪鞴の中へ投げ
ゝるに拜ゝるゝゝとかゝるに
一同に投げ入るゝに不足なくして遂に
以前のごとく滿ちり彼虚空の光
ゝ雄絶寺の觀音の眉間より金の光
りとなるら拜ゝり其日の不思議一ワ
あらびとなる事

女人ハ此僧ハ其切ありて大佛殿ハ後乃方
武山より見ゆして西とさしてさりぬ
是則阿弥陀如来ハ聖衆ハ菩薩数多感
じて助力しを給ふ所の後ハ山より
社と造立しを女人ハ時邪とあらたて後
つまり被者をよいよ親者とあらられ
て来とさして帰りさりぬ

大佛縁起とりて仏象ふかりをつくり奉人金ぶを
れ力及ずしてつくり大唐より来あんとみて八幡大菩
薩託宣して仏ぶつよりあとをとゝめをしへ給ふの
勅ありて金銅大菩薩の像をかたどりたてまつる仏金堂
に奉安置ぶ勅願より感じてすゝらあいやまされぬ義を持
現まのあらうをあらはしてのたまはく仏ぶ菩薩我を
止よあらゆる仏法勅願の時大仏ぶつと我を守護をなす
ありて近江國栗太郡湖水竜王一れんありめをを揚雲
辺れ地ありのしるしを彩色をなすべきをなり

良辨僧正親王に仕へ給ひ侍りし山のあなたに
ゐ一人に義天と云ふ庵を結して奥を住る
所あり〳〵て言ていとく我い南
山に坐し比良に住て和尚の親書を
しるし給へと和尚とゞめとてうせよりの傍
正真ゆゑの堂とゝとゝく地蔵菩薩を捨
現等に形像と安置して為の宝福に法と候し
て英合と彩色を施りし今に石山寺に在り時
に奥に引り合花山として英合に山あり流流

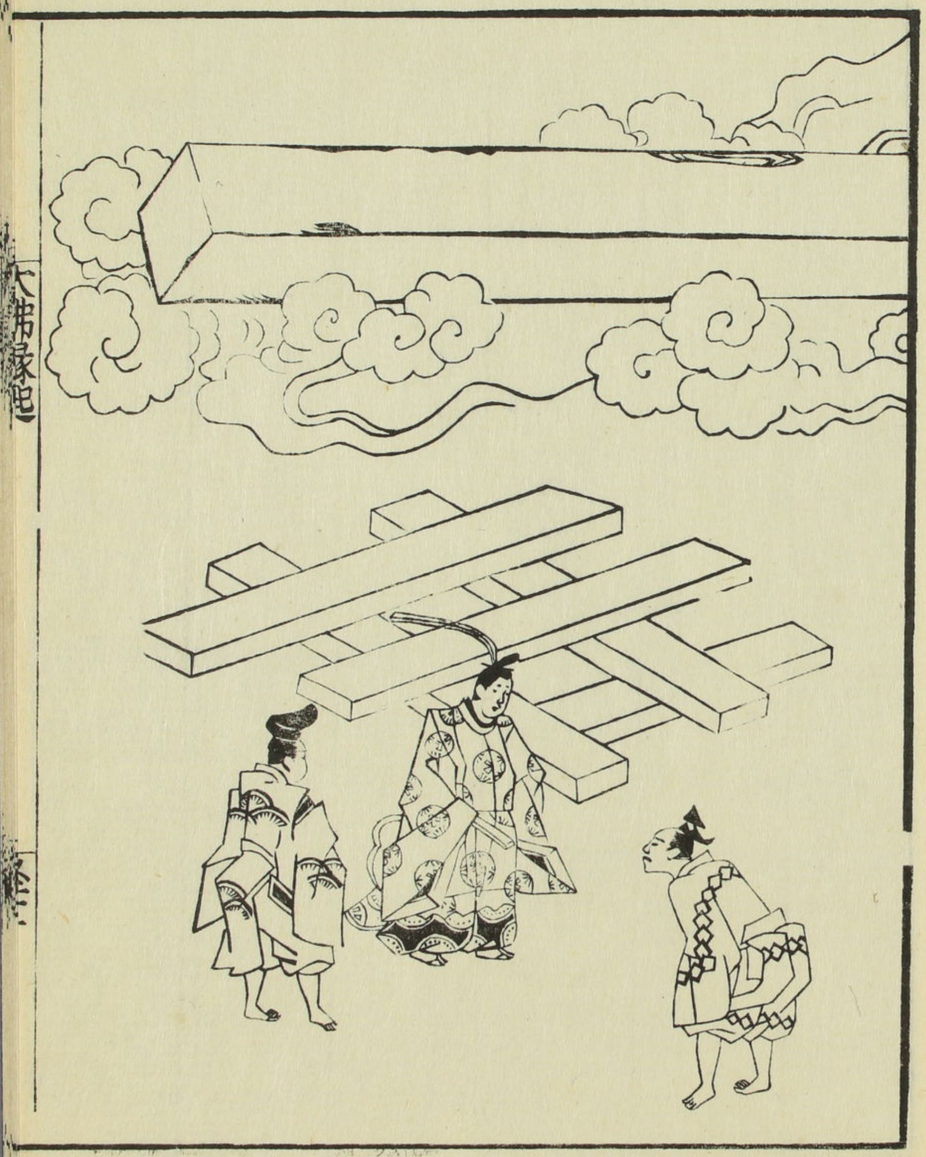
雲霧彼山とも震し金とうをを落ひかり
又同山より黄金九百あとをまつりそうゑ
よりて天平神護年号を勝寶と改し二字とく
くて聞えありしかれば神云
大伴家持卿事と変しあてまつるこうこ
ありし
とを色ら見れ伝代さうんとあつまるは
みちのくの山ありしよ花さく

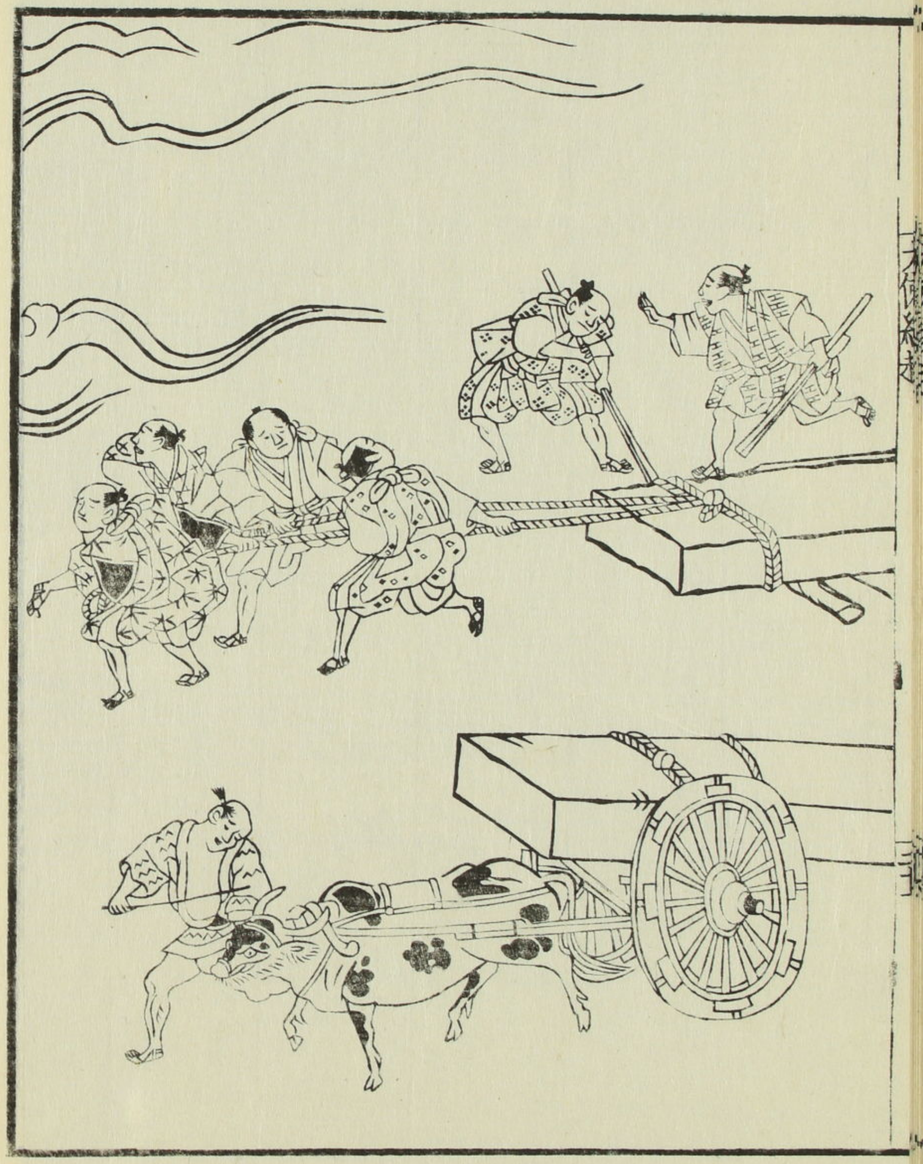
東大寺大佛殿縁起下

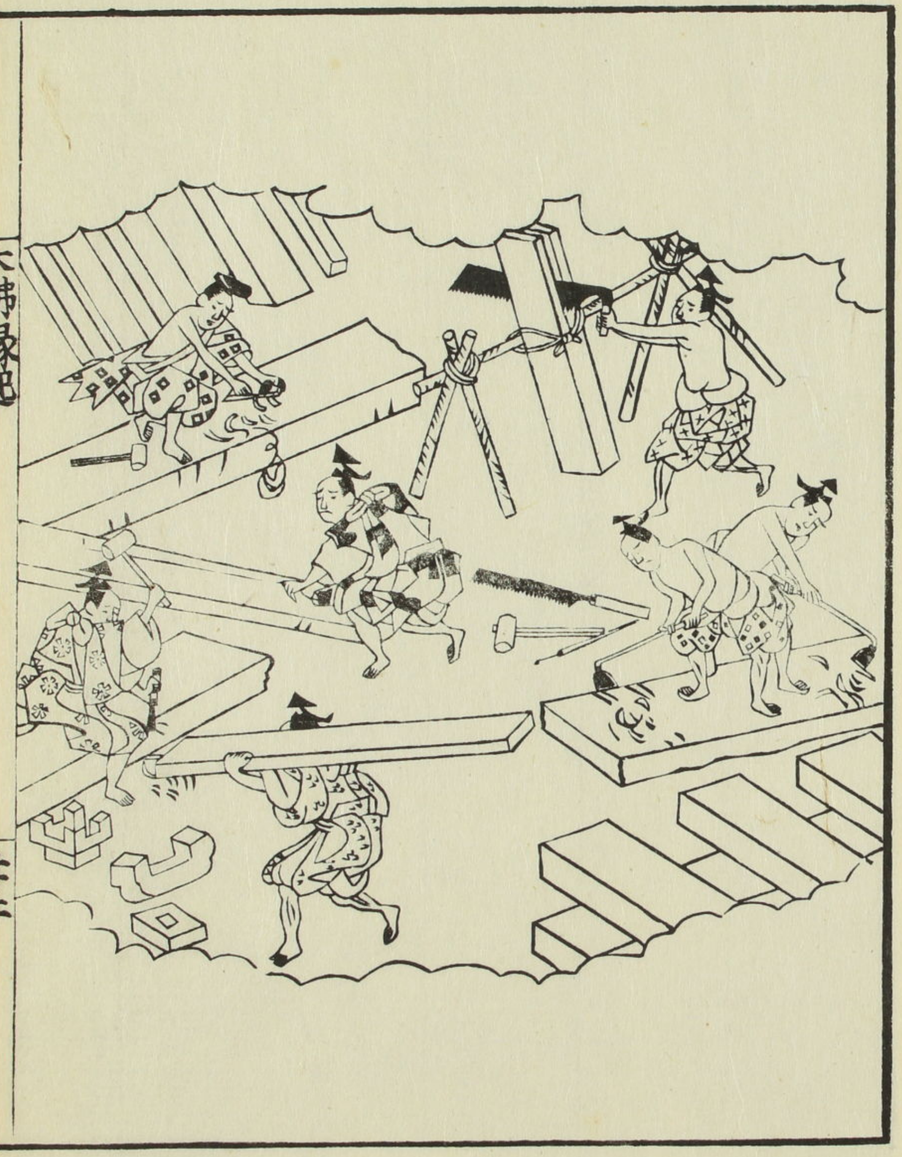
伊賀國より板木とりそこなうて
鎌川に上る三日町にとりあげ
あさりて川に入るあいだの下とて
はてあるくゆくゆく筏も板木とともに
事のあらず祖儀なれとうづひー
とる紀家新宮屋より綾りてよりて法と
ゆしくうべ方よりて雷神そうり宮と
そうでこと屋ずり遣と知りてうべ板木

ちぐさの事ありしかは甚そのうつ二ツ器
山一ツ流とありて磯原よりおくれ墨と
りよ一ツ山ゝ山城の國中へおくれりて仮の
墨とりよ色あり根拵金よ深して人民幸る
とあつる找米とこれ屋ゝ屋ゝ屋ゝ
ゝ力士變化ツ牛ツ月城よ寄りて找米と引く
事ツ色あり酒とこれ大日如来ツ変化ありと
あんゝも　又久米郷ツ人文芝寺ツ沙事ツ而
よあつる彼遠寺ツ宮太宰帥　紀伯宿禰今毛人

よりて相拵ありゝ久ゝ彼人文とあんくいゝく
彼ゝ人よあゝ人文ゝ出家と感して持名ツ来
まつりて找米とこれ屋ゝ屋ゝ彼人文ゝて
取ゝ氣色ゝて氣色ゝ而ゝ彼人文ゝて
動ゝりよ護法ツ天魔と動ゝ信ゝ
怨よ虚空ゝ飛芝寺ツ而ゝ
乃人沙義拵ありあさゝのあり







大佛殿造營はじまる勅とりされ所国
は者とりされしに摩尼のり五百は河羅
漢とびらぐり造營は所ふあり飛騨番匠
は敦と現じあり造寺おりて後高寺
表高現はとびうり西とさてさり法
ひあ刑殺罪ふ社とさて五百案西は法邪
とあるあり今ふ邪生あらあり

行基菩薩大佛供養ハ導師しるべさとし
勅定ありしより行基いとく南天竺より
當國へ菩薩まりのぼり給ひくしもの
おまらて供養ハ導師ハ遠用ありし
と辭退申されしうゑ別行基菩薩
と先達として二百人ハ伴ハ伊賀部
玄番雅樂ハ三月と摂津國難波津ハ
ひらり書花とそのへ菩薩へ
とおゐ結ぶ十来子と相具して和ハ

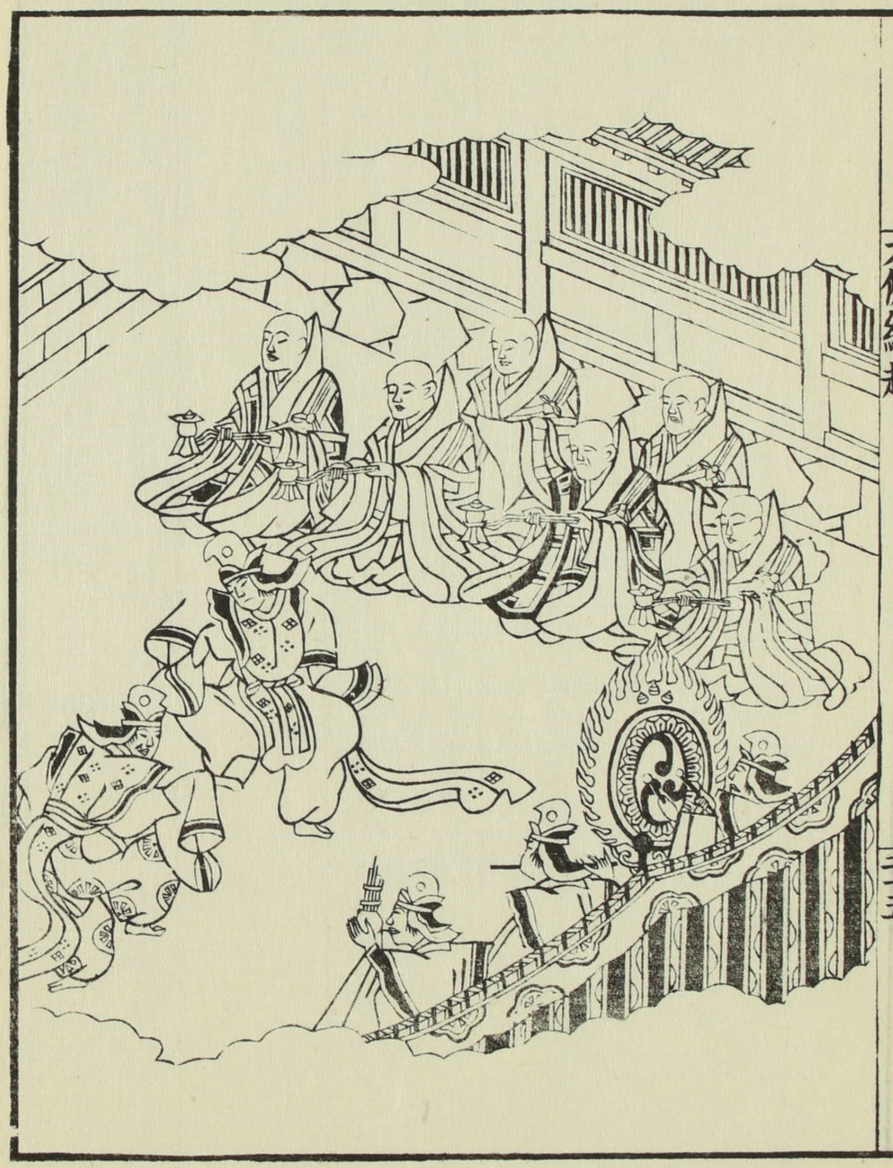
素して来り給て婆羅門僧正に礼し
申しとりけて彼菩薩に礼をとり
て奇と称じ奉りぬ
加賀屋衛門よりに奏しひあらく
文殊は三ヶ所あひ見つる事
彼菩薩を奇あり
当山は釈迦の化れ給へり奏りて
去ぬ
今は御奇より釈迦は礼給へ奏りて

と仰ける菩提文殊は二菩薩は智一雙は脇
士として山大伽藍として中尊如来は釈迦
と為て三世は衆生と慈悲を施給事と
釈尊は世は観音菩提は和尚として
らぐり亜給へ給へ
婆羅門僧正菩提

鍮石香呂　五具
菩提子念珠　十連
多羅葉梵字　百枚
仏舎利　三十粒

稱くれ奥和と天竺より沙奢善薩小僧く
て天皇へたてまつる明くて天平勝寶元年
壬辰 厨旧月九日大佛供養あり
聖武皇帝行幸あり供養導師菩提僊正
菩薩僧正 化現 講師元興寺澄観律師 化現 願
師大唐礼道璿律師 梵音師二百人 維那
六人 讃杖衆二百人 唄師十人 散華師十
人 定者 供人 納衆三百四十人 其外衆僧
沙弥等八千八百九拾四人 於合一万四千六人也

菩提僊正之屋よりの筆とりて開眼
供養あり其筆より繩とけ引てより糸
消れ法人繩ふ九つ宮開眼れ繩とし
ぐしりんとあり此時菩提僊正と
菩薩 六牙白象より乗じて天舞れ
屋ふ来り法人新見と菩薩
の化現之報之事



聖武皇帝は后光明皇后の慈悲深き
あまり温室を設け毎月三度病苦の
者を入れ給ひ則皇后身づから被湯
屋より出所ありて膿血をつけ給ふ
うち癩病なりと澡浴しひしうぶ
大慈大悲の利益廣大無辺なると感奇
河図妙末無尽新図ありそれより被温室
と河図寺とえんづけ給ひ

治承四年十二月廿六日平重衡数万騎ノ軍
兵ト率シテ南都ヲ發向セシ同廿八日
東大寺興福寺ノ堂舎焼ケルガ如クナリ大仏
殿金堂ノ諸仏悉ク焼ケ亡ビ了ヌ
ルトキ大ヒニ見聞ノ人涙ヲ
ノゴフ梵天帝釈モ眼ヲ覆ヒ天邪鬼
腸ヲトヾム治ヲ人ハ千時虚空
ニ鬼形ヲ現シテ大佛殿焼ケルガ
シルナリ見ンヲ思ヒテアリト

いよ〳〵ごりてとる義入道清
盛公聲とゞて怖畏れ思ひとのされしみ
行ゐ〳〵熱病とうけ悩乱をまつ〳〵ば
板ゐとゞてあるこゝろ
ぢり〳〵あつやく〳〵ものこらひく弱ゐ
養和元年閏二月晦日薨じ給ひその
年卒去れ一門悲く西海に彼ゐ去げゐり

千時後白川ノ法皇大佛殿破滅ヲトヽク
歎給ひて頼朝右大将ヲ仰て関東長門
ノ両国ヲとゝのヘられ後素房重源大勧ヲ
乃和漢ニ求めさせ給ひ宣旨ヲあそばされ
ル後素上人言給ふ先周防國
へ下向し松入り給ひて材木ヲ出し事た
やすく山とゝのヘ給ふ海ヲ
うゝら川と云ふ所ひ一ヨあゝざるゆへ
ヨ法ヲ出し人夫ヲ召集ル後素上人

大石ヲ海ノ底ヘしくゝふらぐり同時ヨ数ノ男
あげあゝび名号ヲとなへ給ふ
材木ヲ引ク又彼ノ材木大蛇ヨリ
千倍出現して大ノ人ヲとゝめ川ヲ海ノ法
ノ事ヲ申給ふ
ヨりくりむしゝ雷神ぐりて笠
ヲ出し岩山ヲ中ぐり今ヨ大勉出て大ノ山
とゝめしぬそのヲ不思議者ヨ今ヲ同ド
霊天邪地祇ノ冥感ヨあらずや

後素上人周防國ゟ永く報生とゝうんじゑん
しこきゝと奥よりの親治善國ゟ
合せられ上人或夢ゟ覚ゟ結とゝ
奥おゐくむゝぐり来ていくく大佛
殿造営ゟ親治善國ゟ合ゝ為て手紙ゟ
より出る乃長藤とのゝ仰ぐさよ永く
猟師とやゐゐゟ事出離ゟ孤とうゐひ
ゐゐやとゝくれぐ上人ゟ猟師ゟ
綱とゐゐゐ仰ぐさよりゝ又下知ゝゐくで

おくゟ結とゝれ上人手とさぐゐゟ
庄とゝひゝくゐりゝ又周防國より大仏
殿ゟ天ゟ衣木を海ゟようぐ溝上ゝ
附海賊あまゝ出あひ船ゟ衣木をうぐひゝ
ひとゝゝゟ仏ゟ衣木頼ゟゐ文ゝゝゟ溝
長天ゟ彫ゐ現じゐくば海賊ゟゐぐゝゝ
ゟ方へゐげさゝゝゝさ不思議ゟ事と
ゐん

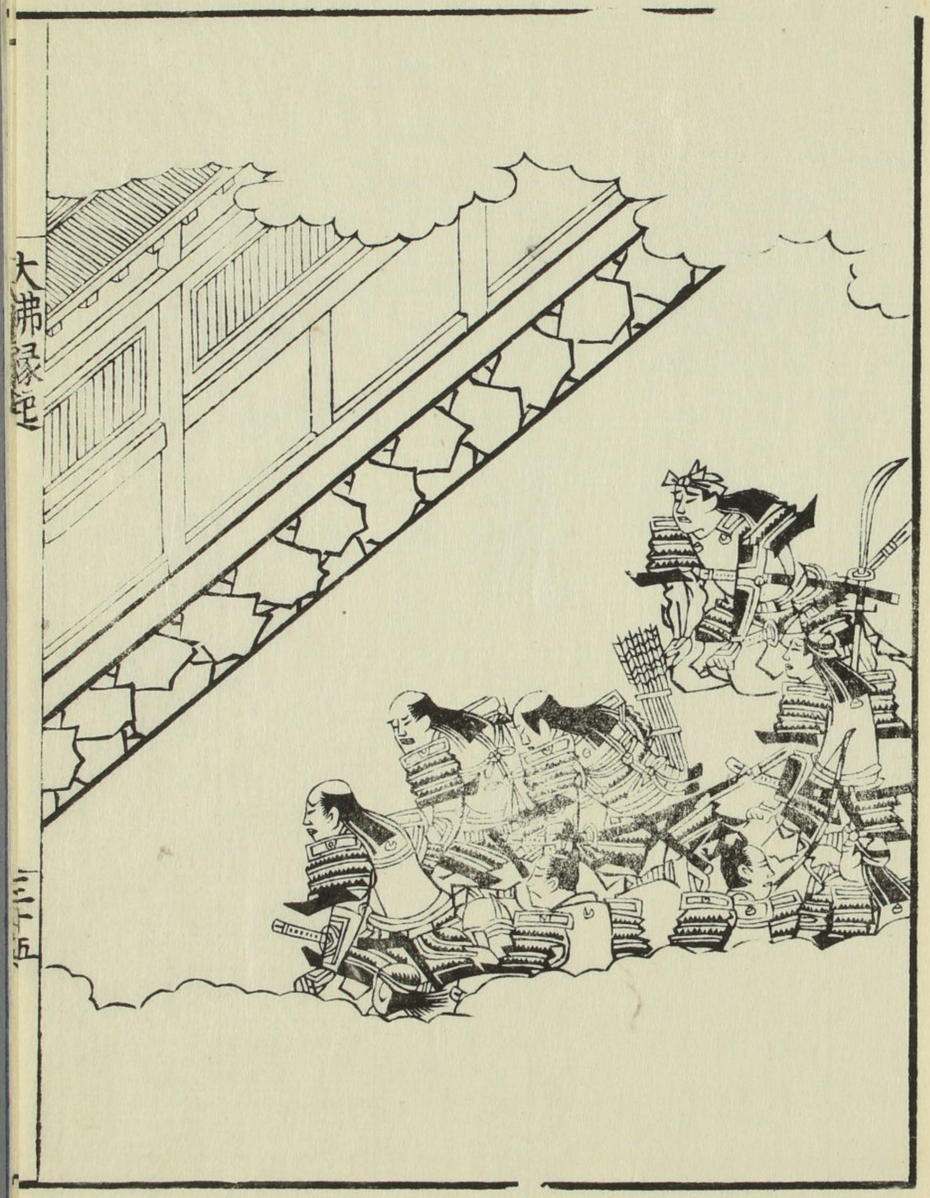
大佛緣起
三十四

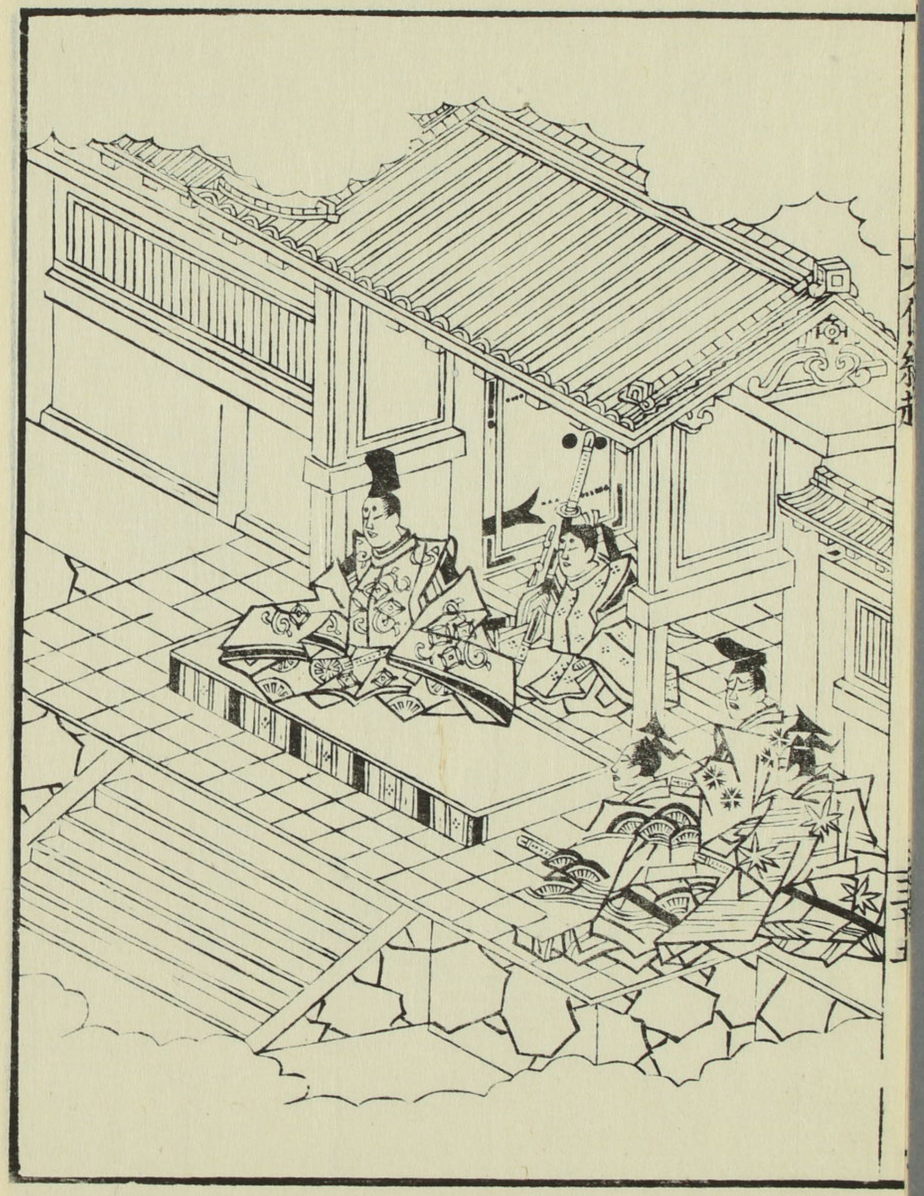
大佛緣起
三十五

建久六年三月十二日大佛殿供養
後白河法皇御願僧正奥福寺別當
持僧正覚憲祈願師南寺別當持僧正
勝賢奉行人数天平供養より
ちくあらしの勅宣によりて頼朝相模國
より十万疋を奉しる南都よりあり
大佛殿と二重小宇後堂則形を大
仏殿の中門に安置しつぐら中門の
相ふ判形をとく後代の亀鏡とする

作りその日の供養どく一ふあらしの善夢
美麗の御願ふ奉じて供養の初へ出現し
弥勒りむりし天平の供養より異の拝備西
と現じ今まで消のあり新の弥勒
事古今の化仏ものしきたのしき
の又雷神大佛殿の大屋より落下するに
糸消の道俗と変じ貴賤たましのとう
しのひしぐ雷神も結縁のありし
うばふまさいあんとあらばの大佛殿とこの

道〻屋敷とさうてあぐりゐ成就眞福
寺の住僧良秀尼告ありて毎月又月う
十ケ月の間百日の僧侶と屋敷して大仏殿
の宮人番をして法華経讀誦年中無事寺
戒壇院の西道上人愛想云大佛殿の宮
番りのとりて廣間天令れよ寄付の結道
僧の名字と一〻よりて付給ふと月人寄り
面〻に大佛殿寄付の結願をも廣大の功
德願ありさきもの求





大佛殿縁起舊板當院皇祖公慶上人住職之時雖
清須義氏寄附之既紛失而不存矣今時如例候大
祖母之侍女佐川法名妙心尼為大祖母追淨珠院
殿滅罪生善往生佛國且為祈渡邊長兵衛家運繁
與信施若干淨財再鏤斯縁起因事添刻本願
聖武皇帝金銅勅願文双流通之四方萬令貴賤上
下浩縁於盧舍那大佛爾

天明三癸卯冬

造東大寺大勧進職龍松院学憲拾三阿弥陀佛

右大佛殿縁起一卷據龍松院先
德崇憲師跋文天明三癸卯冬再
鏤成然其後惜哉紛失版木久缺
出版豈圖去大正三年故人上村
觀光氏發見其版木在於京都某
書肆遂藉其斡旋再得歸當山有
矣爾來欲印行之以頒布有縁諸
士未果今回偶諮之于本宗末院
元興寺住職水野圭真氏乃同氏
信徒山城國木津町綿崎平男氏

二百四十冊分同出雲國松江市
景山久子氏六十冊分各喜捨淨
財助刻之始得達素志焉茲謹祈
兩家累代之菩提併表感謝之意
又願依斯勝因緣衆生同登華藏
玄門萬類共入毘盧性海

昭和六年六月如意日

東大寺管主三宅英慶識